

**小論文審査** (配点 100 点)

【出題趣旨】

問題 1

長文の読解能力と要約能力を問う問題として、

問題 1 は、筆者下村湖人の視点による現代における『論語』を読む意義について、まとめる力があるか否かを判断するために出題した。

設問 1 では、どのような書籍として紹介しているか？との設問なので、設問 1 から設問 3 までの各設問の相違を意識した解答では、2 頁☆印までが要約されていた。他方、全般を通して(設問 2 や設問 3 と重複する部分を含んで)論語を紹介しようとする解答もあったが、いずれの場合においても、字数制限の中で筆者が強調している部分を的確にとりあげて記述できているかを判断基準とした。

設問 2 では、なぜ、論語を読む必要があるのかという設問に対して、筆者が示す理由部分を記述することが求められている。3 頁最初の☆印以前の部分にそれが示されているが、単にその部分のみを抜き書きするのではなく、筆者のその他の部分も含めた一連の文章を前提に、当該部分を示し、まとめる力が求められている。

設問 3 では、筆者が繰り返し強調している論語を正しく読む上での留意点を問うものである。筆者がつけた作品名とその結論部分とを意識して、「皮をはいで果実を食べる。」、この意味を筆者の言葉をういながら、なぜそのように読まなければならないかの理由も附して要約する能力を問うものである。

問題 2

問題 2 は、問題 1 を終えた後で、実践的に『瑚璉』を読んで、孔子の言葉の意味と、孔子の心情を問うことで、表現力をみることを目的として出題した。

設問 1 では、孔子がなぜ泣いたのか。孔子が使った「君子」と「器」の言葉の意味が理解できているか。子賤や子貢のどのような行動をもって、そう判断評価したのかを示すことが求められる。そして、孔子の涙の理由として、孔子と子貢とがどのような関係にあったか等を示して結論づけることが求められる。

設問 2 では、『瑚璉』に書かれる孔子の言葉を、法律家を目指す受験生としてどのように捉えたのか。自分の立場に置き換えて、事例を想定した文章表現を求めるものである。

したがって、まずは、どのように捉えたのか、また、その理由を論じた上で、自身の法曹像に言及し、孔子の言葉を実践しようとする場合には、具体的な場面を示して述べる表現力を求めるものである。否定する場合には、法曹には必要がない理由をしっかりと示すことが求められる。

以上